

令和6年度 第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和6年7月23日（火）午前9時30分～12時00分

場所：市民ふれあいプラザ コムコム 多目的ホール

【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、木村加奈子、佐藤真弓、簾内正人、千田匡、張了了、長崎久美子、中嶋俊彦、益田光、[座長] 三浦栄一（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

近藤大介、庄子芳和、田崎覚、成田耕介（五十音順、敬称略）

【部長等（説明員）】

小松正彦総務部長、西根弘樹財務部長、佐藤栄作市民生活部長、三沢聡健康福祉部長、金田浩樹産業部長、益子和秀観光文化スポーツ部長、長岐孝生建設部長、金澤誠教育次長、松橋雅徳消防長

【事務局】

福嶋統総合政策課長、永坂洋男政策係長、菅原徳人主査

開会

【会議の概要】

0. 新委員の紹介
1. 座長あいさつ
2. 協議事項

事務局（菅原主査）説明

- ①会議資料の確認と会議の進め方について説明
- ②当日資料1「総合戦略・総合計画目標値達成状況」と当日資料2「北秋田市人口ビジョンの推計値との比較」について説明。

（1）第2期北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第2次北秋田市総合計画後期基本計画 効果検証シートについて

・効果検証シートについて、各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

《質疑応答》

・質疑は総合戦略と総合計画に区切って進めることとして総合戦略は戦略ごと、総合計画は基本理念ごとに議論を行った。

○総合戦略

「戦略1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり」

※検証シート No. 1 ～ No. 21

伊藤委員）No. 10の施策について。起業される事業者で特に多い業種について教えてほしい。（産業部長）飲食に関する業種が多い。

伊藤委員) No. 11 の施策について。出店されている事業者について、何か傾向的なものはあるか。

産業部長) 若い方々がスタートアップとして出店していたり、誘致企業としてのサテライトオフィスとして利用されていたりする傾向がある。

益田委員) No. 13 について。目標値が 160 商品とあるが、首都圏にある秋田県のアンテナショップに置いている商品数をみても 160 商品あるかわからない。1 自治体のみで 160 商品となれば目標値の設定が高すぎないか。

産業部長) 東京都板橋区にあるハッピーロード大山商店街と連携を図り、市の特産品をアンテナショップで販売していた経緯もあり、目標値を設定した。令和 3 年に再開発に伴い事業が終了したが、111 商品まで増えた実績があることから、現在新規アンテナショップの開設に向け、関係自治体（商工会）と協議中だが、この目標値で引き続き取り組んでいきたいと考えている。

大穂委員) 同じく No. 13 について。都内でも空き店舗がある現状、利用希望を求めている店舗所有者が一定数いる中、例えば、ふるさと会会員に呼びかけるなど、販路を広げていくのが手法としてあると思う。秋田の特産品を取り扱いたい事業者をつなぐ役割を市に担っていただきたい。

産業部長) 今後、ふるさと会会員や秋田県又は北秋田市と関係ある方々と関係を広げていくことが現在の課題の解決の糸口だと考えている。現在、協議中の事案として、EC サイトで販売等の仕組みを検討等している。

「戦略 2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進」

※検証シート No. 22 ~ No. 26

益田委員) No. 23 について。移住定住関係の KPI（指標）について、累計の考え方を教えてほしい。

産業部長) 総合計画前期基本計画及び第 1 期総合戦略からの積み上げ、累計としてまとめている。

益田委員) No. 24 について。体験移住参加者数の達成率が非常に高い。その分担当職員への業務負担が増しているのではないかと考えているが、現在、担当部署職員の増員など検討しているか。

総務部長) 現時点では増員は考えていないが、必ずしも担当部署だけでやる業務ではなくて、それぞれ所管する部署と連携して進めることが大事だと考えている。

「戦略 3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進」

※検証シート No. 27 ~ No. 37

・質疑等なし

「戦略4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成」

※検証シート No. 38 ~ No. 69

- 木村委員)** No. 44 について。不登校児童生徒が多くなっている傾向を個人的に感じる。不登校支援関係でお話を聞く機会がある。保護者も子どもも困っている。不登校児童生徒の理由も多種多様になっており、発達障害もその一つと聞いている。学童期の大事な時期に、引きこもり支援、幅広い相談等を受け入れる対策を行っていく必要があるのではないか。
- 教育次長)** 令和5年度の不登校数 35 人で今年度の人数については、増えているとご指摘があったので確認したい。リフレッシュ学園では、現在 18 人の入園者がいるが、学校、教育委員会、保護者と連携をしている。不登校対策として不足の部分があれば今後さらに対策をとっていきたい。
- 佐藤委員)** No. 49 について。コムコムの音楽スタジオ等を利用するために、近隣自治体からわざわざから来る団体等が一定数いて、そういった方々がスタジオを利用したら、どこにも寄らずに帰ることが多いとのこと。なにかコムコムやその周辺で足止めできる方法があればよいと考えている。
- 教育次長)** 音楽スタジオ等利用していただき大変感謝している。施設内にカフェテナント1つとチャレンジブースが2つある。カフェテナントが現在空き状態なので、ここに手を挙げていただける事業者がいれば、施設内での滞在時間の増加やにぎわいづくりに繋がると期待している。カフェテナントに興味がある事業者もいらっしゃるようなので、ご指摘の課題について、テナントの利活用等を検討していきたい。
- 三浦座長)** No. 69 について。移住してくる方又は検討している方々の「移住したい」というきっかけは何か。また、その方々は、北秋田市のどこが魅力的だと感じているか教えていただきたい。
- 産業部長)** オンライン等での移住相談がきっかけとなっている。相談者の約3割がLINEアプリを利用して相談を希望される。気軽に時間にとらわれず相談を受けれることがきっかけの要因として大きいように感じる。

○総合計画

「基本理念1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり」

※検証シート No. 70 ~ No. 78

- 佐藤委員)** No. 70 について。訪問看護事業所が年度末に1施設廃止ということもあり、残りの事業者には負担がかかっている。がん末期の相談などもきている現状だが、人員不足のため、満足に対応できていない。体制強化と人員確保が必要ではないか。
- 健康福祉部長)** 施設廃止も人員不足が直接の理由だが、市としても早急に対策を進めていく必要がある。県と事業者と連携し、対策を検討していきたい。

佐藤委員) No. 73 について。市民の方で、介護の関係で市外の施設に入所している場合、健康診断の案内がきても受けられないケースがある。その際、連絡窓口はどこになるか。

健康福祉部長) 連絡窓口は、保健センターになるので、一度問い合わせ・ご相談等受けていただければと思う。また相談窓口についても、市民に周知していきたい。

「基本理念2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」

※検証シート No. 79 ~ No. 90

木村委員) No. 89 について。就労するにあたっての事業者数が北秋田市は近隣自治体と比べて少ない。現状、他市で就労されている方が多い。また通勤等に係る外出の支援サービスがない。就労はできるが、通勤が難しいケースもあり、家族が送迎しなければならず、負担が大きい。今後、移動支援について検討などを行っているのか。

健康福祉部長) 外出支援については、度々ご意見をいただいております、課題として認識している。それぞれ各家庭で事情も違うことから、きめ細かい支援が必要となってくる。今年開設した北秋田市障がい児・者地域生活支援拠点施設や基幹相談支援センターとも連携を取りながら、支援策を検討していきたい。

「基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむまちづくり」

※検証シート No. 91 ~ No. 100

中嶋委員) No. 91 について。遺跡を見学したことがある市民の割合について、一昨年の実績値だと7割の市民が見学したことがないという結果だった。それと比較して、今回の実績値を考えると約10%アップしたという点では評価すべきだと思う。要望についてだが、さらに遺跡に足を運ばせる上で、学術的な魅力も伝えることも大切だが、気軽に足を運べる環境整備が必要ではないか。例えば、保育園児が体験メニューや施設内で食事をしたりするような遠足気分でもらうようなことが必要ではないか。

観光文化スポーツ部長) 学術的な魅力を伝える難しさはあるが、一方で遺跡から白神山地を見渡せるロケーションだったり、遺跡のために高速道路を迂回させたりするストーリーもある。そのようなものを色々な手法で伝えていかなければいけない。学習の場として子どもたちに縄文文化に触れさせて。気軽に立ち寄れる施設にできるように検討していきたい。今年、市制20周年ということもあり、まずは今年の縄文まつりに注力したい。

益田委員) No. 94 について。KPI(指標)は「芸術や文化等のグループ活動に参加したことがある市民の割合」となっているが、「グループ活動」の定義について教えてほしい。グループ数よりも人数でKPIを図ったほうがよい数値を得られるのではないか。

観光文化スポーツ部長) 北秋田市民意識調査での設問で芸術や文化などグループ活動に参加したことがあると答えた割合の数値である。KPI(指標)を人数に変更する場合は、設問の内容

自体を変更する必要があるので、次期計画でのKPI（指標）を設定する際に検討したい。

「基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」

※検証シート No. 101 ~ No. 115

・質疑等なし

「基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」

※検証シート No. 116 ~ No. 135

長崎委員) No. 125 について。消費者トラブルに関する出前講座を一回行ったとのことだが、老人クラブの会長さんや自治会の総会等でも周知があつてよいと思う。
※質問に対する回答を求めなかったため、回答はなし

その他

張委員) 子育て支援について、市から「産前・産後の家事支援」の案内があり、その中に家事代行サービスがあつた。非常にありがたいサービスだが、個人的には、ベビーシッターのサービスがあればよりよいのではないかと思うが、現状そのようなサービスはあるか。

健康福祉部長) 家事支援については、必要な方には提供をしているが、ベビーシッターのサービスは現在ない。現状、保育所に預けていただく形となるが、子どもの面倒、産後ケアにも力を入れられるよう意見を参考に検討していきたい。

木村委員) 張委員から先程質問あつた件について追加でお聞きしたい。サービスを受けたい方、サービスを提供できる方の双方の登録を行う仕組みづくりを行えば良いと思う。自宅に来てくれるサービスは産前・産後問わず、子育て支援で非常に重要な部分だと思う。

健康福祉部長) 実際、国の制度であるが、現状市では行っていない。今後の施策の参考にしていきたい。

木村委員) 地域の伝統芸能について、その地域に脈々と伝わってきた伝統芸能や祭りがある。それらを、どういう風に残していけばいいか、市全体でどういう風にやればいいかと考えているか。

教育次長) 高齢化が進み伝統芸能を継承していくのが難しくなっている。小学校や中学校で学校活動の場として、地域の方々から学ぶ機会がある。子ども達が興味を持って将来伝統芸能の継承に繋がれば、という観点でも考えている。市全体でできる取組みについては、工夫等が必要だが、なにか一つのきっかけがあれば、広がっていく可能性がある。その、きっかけづくり等については、これから検討させていただければと思う。

中嶋委員） 教育委員会への要望だが、ふるさとキャリア教育の観点から考えると「きらり☆きたあきた」の内容が素晴らしく、この資料集を活用するのが大事だと考えている。伝承芸能や文化等すべて網羅されており、ふるさと教育を推進していく観点から、この資料集が非常によいきっかけとなるが、今後も活用を検討してほしい。

教育次長） 「きらり☆きたあきた」を各校で活用している認識であるが、今後さらに、この資料集の活用をしていただきながら、ふるさとについて知っていただく機会等について、ご意見として検討していきたい。

大穂委員） 北秋田市は自然環境が恵まれていて、多くの観光客が来ている。その中で人間が創り出した田園風景も、観光客にとって非常に重要であると感じる。ただ、昨今の人口減少・高齢化で田園風景が荒廃してきている。内陸線に乗る観光客も、そういった荒廃した情景を見たりしているので、この景観等について、観光資源にもつながる部分だと思うので農地保全の面で考えてもらいたい。

※質問に対する回答は、2回目の会議で説明することとした。

三浦座長） 最後に、全体を通して何か意見等はあるか。

益田委員） 森吉山の国立・国定公園化を目指す中で今後観光客が増加すると考えられる。有事の際は、ヘリコプターでの搬送等が発生する可能性があると思われるが、市内のヘリポートの数を教えてほしい。

消 防 長） 現在、市内には有事の際の防災ヘリと医療現場に用いるドクターヘリを離着陸させる臨時離着陸場がある。防災ヘリ 6 箇所、ドクターヘリ 35 箇所を臨時離着陸場としている。

益田委員） 市内のスポーツ施設について、大阿仁地区にも必要だと感じる。

教育次長） 旧大阿仁小学校の利活用については、地域の方と意見交換する機会を設ける予定。その際に、この事項についても協議するよう検討していきたい。

三浦座長） 本日の会議での確認事項は各部署に確認して書面で報告することとする。

また、頂いた意見・提言等は、私と事務局でまとめて、皆さんに報告する。

(2) その他

・事務局（菅原主査）より次回日程及び内容について説明をした。

閉会